

クレネ人シモンと十字架の強盗

— 十字架を巡る二人のドラマ — マルコの福音書 15:16~32

I. イエスの十字架を担いだ人、シモン

1. ローマ兵：むち打ち、紫の衣、茨の冠、敬礼、葦の棒、唾、拝む、からかう
2. クレネ人シモンの災難

- クレネ＝アレクサンドリアと並ぶ大都会 1,253km, 32日
- エルサレムの田舎から？
- イエスの十字架を無理やり背負わされる
- 「アレクサンドロとルフォスの父」

ローマ 16:13 主にあって選ばれた人ルフォスによろしく。また彼と私の母によろしく。

使徒 13:1, 2 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。



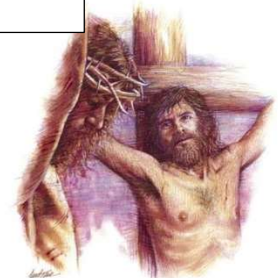
推測

- (1) 信仰深いシモンは過越しの祭りを祝うためにエルサレムに来ていた。
- (2) その日 (A.D.33年4月1日)、人垣が沿道を埋め尽くしていた。
- (3) 何が起きているのか、好奇心で人の波をかきわけて見ると、十字架をかついで刑場に向かう男が倒れていた。
- (4) ローマ兵と視線が合ってしまったシモンはその十字架を代わりに担ぐ破目になった。
- (5) ゴルゴタの刑場でイエスが磔になるのを見た。十字架上で敵を赦すイエスを見た。強盗が晴れ晴れと信仰を持つのを見た。イエスの死後の天変地異を見た。百人隊長がイエスを「神の子」と認めたことを知った。
- (6) その後、ペテロ、ヨハネによるメッセージをエルサレムで聞き、イエスの死は自分のためでもあったことを知り、クリスチャンとなった。
- (7) クレネに帰ったシモンは家族にこの経過をすべて伝えた。そして妻も息子たち(アレクサンドロとルフォス)もクリスチャンとなった。
- (8) その後、シモンは天に召されたが、アレクサンドロとルフォスはローマの教会で有名な存在となった。(マルコの福音書はローマに宛てて書かれている！)
- (9) 使徒パウロはこの家族と親交を結び、特にシモンの妻はパウロに対して、母のような愛情と援助を注いだ。



II. イエスとともに十字架刑を受けた強盗

1. 落ちぶれ果てて十字架に イエス・バラバは赦免、イエス・キリストが身代わりに
2. ののしる人々 通りすがりの人たち、祭司長、律法学者たち、十字架の強盗
3. 一人の強盗の変化



ルカ 23:39~43 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

4. 石井藤吉の回心

日本人の犯罪者にイシイ・トーキチという人がいた。彼は全く獣のように無慈悲であった。彼の犯罪の経歴の中で、彼は男・女・子供たちを無惨に、また無情に殺していた。彼は逮捕されて投獄された。二人のカナダ人の婦人が刑務所を訪ねた。彼女たちが勧めても彼に口をきかせることさえできなかった。彼はただ野獣のような顔をして、彼女らに向かってうなるだけであった。彼女らは立ち去るとき、読んでくれるかもしれないというかすかな望みをもって、一冊の聖書を彼のところに残した。彼はそれを読んだ。そして十字架の物語が彼を変えてしまったのである。『後になって、死刑宣告を受けたその男を絞首台に連れ出しに来た看守が見たのは、それまで思っていたような気むずかしい、無情な人非人ではなく、ほほえみを浮かべた輝かしい人間であった。殺人者イシイは生まれ変わっていたのである。』（ウィリアム・パークレーの聖書注解『マルコ福音書』より）



《辞世の句》

名は汚し 此身は獄にはてるとも 心は清め 今日都へ

III. まとめ

1. シモンがイエスの十字架を担いだことは偶然ではなかった。

箴言 5:21 人の道は主の目の前にあり、主はその道筋のすべてに心を配っておられる。[第3版]

2. 人は善行ではなく、信仰によって救われる。

エペソ 2:8~10 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

福音メッセージ クレネ人シモンと十字架の強盗

マルコの福音書 15章 16～32節 【新改訳2017】

- 16 兵士たちは、イエスを中庭に、すなわち、総督官邸の中に連れて行き、全部隊を呼び集めた。
- 17 そして、イエスに紫の衣を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、
- 18 それから、「ユダヤ人の王様、万歳」と叫んで敬礼し始めた。
- 19 また、葦の棒でイエスの頭をたたき、唾をかけ、ひざまずいて拝んだ。
- 20 彼らはイエスをからかってから、紫の衣を脱がせて、元の衣を着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。
- 21 兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。彼はアレクサンドロとルフォスの父で、田舎から来ていた。
- 22 彼らはイエスを、ゴルゴタという所(訳すと、どくろの場所)に連れて行った。
- 23 彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒を与えようとしたが、イエスはお受けにならなかった。
- 24 それから、彼らはイエスを十字架につけた。そして、くじを引いて、だれが何を取るかを決め、イエスの衣を分けた。
- 25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。
- 26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。
- 27 彼らは、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右に、一人は左に、十字架につけた。
- 29 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おい、神殿を壊して三日で建てる人よ。
- 30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」
- 31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを嘲って言った。「他人は救ったが、自分は救えない。
- 32 キリスト、イスラエルの王に、今、十字架から降りてもらおう。それを見たら信じよう。」また、一緒に十字架につけられていた者たちもイエスをののしった。